

⑧糸高志学

1 1年生糸学事跡

- 令和5年6月13日(火)
糸学ガイダンス(学年終礼)
 - ・糸高志学の概要説明
- 令和5年6月14日(水)
3年生糸高志学発表会
 - ・3年生代表班の発表を聴いて感想をワークシートに記入
- 令和5年10月10日(火)
基調講演「探究的に学ぶってどういうこと？」
北九州市立大学地域創生学群教授 眞鍋和博氏



- 令和5年10月11日(水)
糸島市役所出前講座
 - ・「防災講座～災害から命を守る～」
総務部危機管理課 吉村怜真氏
 - ・「地球温暖化とエネルギーについて考えよう」
生活環境部環境政策課 田中海都氏
- 令和5年12月6日(水)
課題発表準備①
 - ・クラス内で8班に分かれSDGsに沿ったテーマを設定
- 令和5年12月12日(火)・13日(水)
課題発表準備②・③
 - ・スライドでのまとめ方の説明
 - ・スライド作成
- 令和6年1月17日(水)
課題発表準備④
 - ・スライド・発表原稿作成
- 令和6年1月31日(水)
2年生中間発表
 - ・各教室で発表を聴いて感想をChromebookに入力

- 令和6年2月21日(水)
課題発表(各クラス)
 - ・Chromebookでスライドを見せながら発表
 - ・クラスの代表班決定
- 令和6年3月12日(火)(体育館)
 - ・各クラスの代表が学年集会で発表

2 2年生糸学事績

昨年度からの変更点

- ・2学年の各教員がテーマを設定し、ゼミを開設。
- ・1つのゼミにつき、定員を20名程度とする。
- ・すべての班が外部に向けて8分の発表と4分の質疑応答をするようにした。

変更の狙い

- ・課題の設定は探究の肝である。昨年度までは糸島市の課題を中心に取ってきたが、「調べ学習の枠を超えない」「自分事として捉えきれていない」等の課題を指摘されていた。これを受け、生徒にもっと身近な課題に気づき、自分事として捉え、解決に向けて考えていくことで、生徒が主体的に取り組む探究に変えていくことを1つ目の狙いとした。
- ・教員によるゼミ形式とすることで、教員が自らの得意分野を生かせる形にし、ファシリテーターとして生徒に接しやすくすると同時に、教員も責任をもって生徒を指導できる環境にすることを2つ目の狙いとした。
- ・昨年度までも「糸島市役所」「ラヂオいとしま」「i TOP」「WITH Ü」等の団体と連携し、成果を上げてきた。この連携を一層強固にするため、ゼミのテーマに関連した団体と連携し、1年間かけて計画的に探究できるようにすることを3つ目の狙いとした。
- ・外部に向けた探究の発表会を実施することで、自分の発表に責任をもたせ、探究の質を上げることを4つ目の狙いとした。
- 令和5年4月12日(水)
全体オリエンテーション・ゼミ選定
- 令和5年4月19日(水)
各ゼミオリエンテーション
※外部サポート団体来校(以降、毎時間来校)
- 令和5年4月26日(水)
グループ決め・テーマ設定

- 令和5年6月14日(水)
3年生糸高志学発表会
・3年生の発表を聞き、感想をワークシートに記入する。
- 令和5年9月13日(水)
進捗状況発表会リハーサル
- 令和5年9月20日(水)
進捗状況発表会(各ゼミを混合し、各教室で発表)
・発表を聞き、感想をワークシートに記入する。
- 令和6年1月30日(火)
中間発表前日指導・リハーサル(各教室で実施)
- 令和6年1月31日(水)中間発表
・1年生見学(発表を聞き、感想をGoogleフォームに入力)
・外部サポート団体による講評

3 3年生糸学事跡

- 令和5年4月19日(水)
・学年集会後、班長会(今後の予定について)
- 令和5年5月17日(水)
分野別発表会・代表班決定
※外部サポート団体来校
- 令和5年6月14日(水)
糸学発表会
・体育館において、全校生徒に向けて各分野代表班が発表を行った。
・糸島市役所・ラヂオいとしま・学生団体WITH-Ü・学生団体iTOP代表が参観し、書面で講評を頂いた。

ラヂオいとしま B班

「糸島歴史ラジオ」

理科探究 C班

「コロナ禍で1番効果的な消毒」

未来社会で輝く子どもをはぐくむまちづくり ①B班

「ゴミから考える子どもの安全」

未来社会で輝く子どもをはぐくむまちづくり ②G班

「待機児童をなくすには」

人と人がつながり助け合うまちづくり H班

「公園について」

みんなの命と暮らしを守るまちづくり A班

「安心できるよりよい地域に！」

健康で安心して暮らせるまちづくり D班

「ボランティア活動やってみない？」

ブランド糸島で活気あふれるまちづくり ①D班

「ヒト×モノ=Money」

ブランド糸島で活気あふれるまちづくり ②H班

「糸島のおいしい料理」

快適で住みよいまちづくり F班

「糸島の発展 ～衛星写真から時代の流れを知ろう～」

- 令和6年2月28日(水)

「糸学のみどり」発行

(2)実施の効果とその評価

1 目標設定シートに基づく実施の効果とその評価

令和4年度新時代に対応した高等学校改革推進事業(創造的教育方法実践プログラム)目標設定シートに基づき、対象となる生徒・教員に対してGoogleフォームで作成したアンケートを実施し、今年度の実施の効果とその評価を検証した。

2 項目A

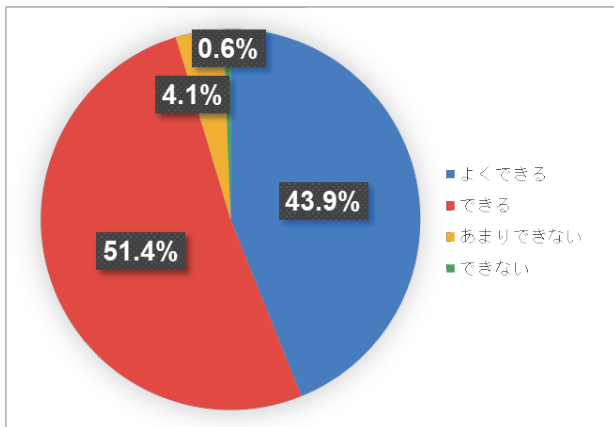
【成果目標】

糸高プラットフォームを活用できる生徒の割合

対象における 目標割合と 生徒数	2022年度	2023年度	2024年度
	40% (約144名)	80% (約583名)	100%

今年度対象：1年生10クラス(382名)
2年生9クラス(347名)
計729名が対象生徒

○Googleクラスルームをはじめとする各種アプリケーション(ドライブ、ドキュメント、スプレッドシート、スライドなど)を使用して指示された学習を行うことができる。



「よくできる」と「できる」の回答の合計
95.3%(665名)

信頼度95%で対象生徒の母集団の母比率を算出
「よくできる」と「できる」と回答
[93.7%, 96.9%](729名)

信頼度95%の母集団の母比率pの信頼区間
 $a \leq p \leq b$ を $[a, b]$ で表記

3 項目B

【成果目標】

大学等の外部教育資源による講義等を実施した教科(科目)の割合

対象における 目標割合と 生徒数	2022年度	2023年度	2024年度
	20% (約72名)	70% (約510名)	100%

今年度対象：1年生10クラス(382名)
2年生9クラス(347名)
計729名が対象生徒

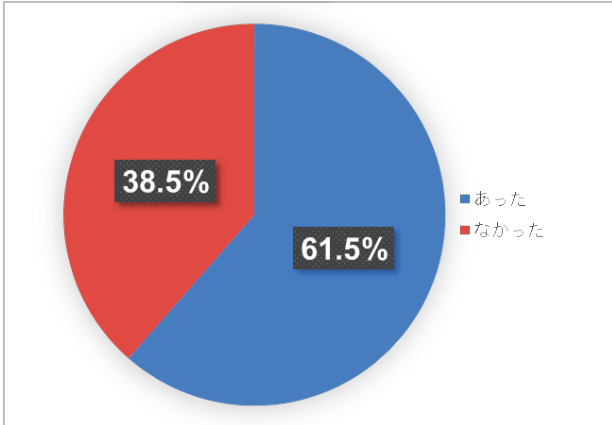
教科(科目)での実施一覧

- 総合的な探究の時間(1年生10クラス)
外部教育資源：慶應義塾SFC研究所井上先生
外部教育資源：OGIMO テック開発室広瀬先生
外部教育資源：岡山大学中山先生
- 総合的な探究の時間(2年生9クラス)
外部教育資源：韓国ソジョン高校
外部教育資源：韓国教育開発院クウォン先生
外部教育資源：宇宙航空研究開発機構JAXA 上村先生
外部教育資源：九州大学大学院元兼先生
外部教育資源：EdTech企業WILL SEED
外部教育資源：糸島市役所
外部教育資源：パナソニック
外部教育資源：岡山大学中山先生
- 人間健康(学校設定科目)(2年生1クラス)
外部教育資源：福岡国際医療福祉大学
外部教育資源：令和健康科学大学
外部教育資源：純真学園大学
外部教育資源：糸島市医師会
外部教育資源：糸島市消防署

1年生(382名)における実施割合

382 / 382名 100%

2年生(347名)における実施割合



193 / 314名 61.5%

対象における実施割合

575 / 696名 82.6%

信頼度95%で対象生徒の母集団の母比率を算出
「あった」と回答

[79.7%, 85.5%](729名)

4 項目C

【成果目標】

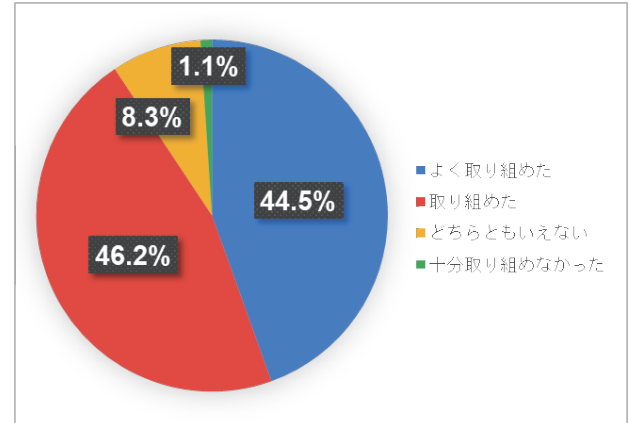
国内外研究者や人材と協働して、自由に授業づくり
ができる体制を整備する

対象における 目標割合と 生徒数	2022年度	2023年度	2024年度
	15% (約54名)	55% (約401名)	100%

今年度対象：1年生10クラス(382名)
2年生 9クラス(347名)
計 729名が対象生徒

○糸高志学について

Chromebookを活用して、情報収集・発表資料作成・
文書原稿作成などに取り組めたか。



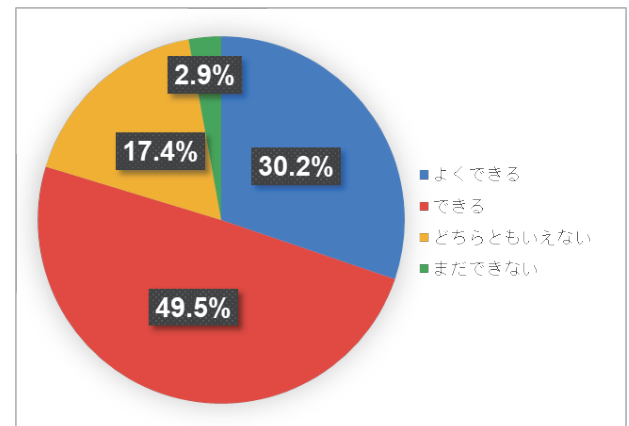
「よく取り組めた」と「取り組めた」と回答603名
90.7%(665名)

信頼度95%で対象生徒の母集団の母比率を算出
「よく取り組めた」と「取り組めた」と回答

[88.4%, 92.9%](729名)

○糸高志学について

糸学の授業を通して、学んだ知識や身に付けたスキル(文書作成やスライド作成など)を授業など学習
に生かすことができるか。



「よくできる」と「できる」と回答
79.7%(665名)

信頼度95%で対象生徒の母集団の母比率を算出
「よくできる」と「できる」と回答

[76.6%, 82.8%](729名)

(3) 成果の発信・普及

① 第1回実践発表会・公開授業

「新時代に対応した高等学校改革推進事業(創造的教育方法実践プログラム 第2期)」

第1回実践発表・公開授業

1 実施日

令和5年6月14日(水)

2 日程

13:15～13:30 受付
13:30 学校長あいさつ
福岡県教育委員会あいさつ
13:35～ 福岡県教育委員会紹介(校長)
運営指導委員紹介(副校長)
糸高コンソーシアム委員紹介(副校長)
～13:40 糸島高校職員紹介(自己紹介)
13:40 本日の日程説明(副校長)
13:50～14:35 公開授業(6限目45分 授業)
14:45～15:00 糸学発表(会議室から遠隔参観)
15:00～15:25 第2期事業内容説明(研修開発課長)
15:25～15:35 公開授業担当者講評
15:35～16:00 協議・質疑
16:00 学校長あいさつ

3 公開対象

福岡県教育委員会、福岡県教育センター、運営指導委員、糸高コンソーシアム委員
生徒保護者、関係事業関係者

4 研究授業者

教科(科目)	担当者	実施クラス	創造的教育方法実践内容(概要)
国語科(論理国語)	井上 陽平	2年2組	Google Meetで遠隔授業
数学科(数学Ⅰ・A・Ⅱ)	加藤 直大	1年10組	グラフ作成ソフトの利用 タブレットを用いたの全体共有
英語科 (コミュニケーション英語Ⅱ)	伊藤 直美	2年5組	クイズアプリKahoot!を使用
理科(生物基礎)	高嶋麻衣子	1年1組	WEB版のゲームを活用したICT機器の活用
地歴・公民科(歴史総合)	田村 晴香	1年9組	Google Jamboardを用いた共有

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和 5 年 6 月 14 日

教科	国語	科目	論理国語	単元	自他の「間合い」
実施学級	2年2組	実施教室	2年2組教室	授業者	井上 陽平
本時の指導目標	筆者の考え「自分のアイデンティティを確認するためには他者が必要である」ことを実際に体験し、本文をより深く理解することができる。 【思考・判断・表現】				
本時の手だて	・ICT機器の使用とアクティブラーニングを通して本文を深く理解する。 ・Google Meet を駆使して自分のアイデンティティを知るきっかけを作る。				
創造的教育方法の具体的実践例	・Chromebook や遠隔講義を駆使して、グループワークの規模を拡大させていく。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて			評価
導入	自他の「間合い」の内容の復習 ●本文の読み取り	○ワークシートを配布し、自他の「間合い」の筆者の要点を再度確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 筆者の論 自分のアイデンティティを理解するためには他者と関わる必要がある。 </div>			内容や書き手の意図を解釈し、文章の構成や論理の展開などを理解しようとしている。 (記述の確認) 【思考・判断・表現等】
	グループワークを通して、自らのアイデンティティを知る ●「自分の長所は何か」という問いについて考える。	○Google フォームでアンケートに答え、問いに答えるヒントを与える。 ○1人で考える時間、ペアで考える時間、グループで考える時間を設ける。 ○Google Meet を使用して、他者から見た自分の長所を知る。 ○Google フォームの結果をグラフにし、自らの得意なことを浮かび上がらせながら、自分の長所を考える。			周囲と協働し、正確な情報を伝え合いながら、自己を深めようとしている。 (記述の確認) (様相観察) 【主体的に学習に取り組む態度】
まとめ	単元のまとめ ●本時の振り返りを行う。	○周囲と関わることの重要性を再度説明する。			

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年6月14日

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単元	イギリスの繁栄と国民国家の拡大
実施学級	1年9組	実施教室	1年9組教室	授業者	田村 晴香
本時の指導目標	① アメリカ合衆国の南北の対立背景と、奴隷解放宣言の影響を理解することができる。 ②アメリカ合衆国の南部と北部の対立軸について、奴隷制・貿易・政府の権限の視点から考察することができる。				
本時の手だて	①授業プリントで、独立宣言後のアメリカ合衆国の奴隷制の背景を理解させる。 ②班活動で、ICT (Google Jamboard) を活用させ、様々な意見を共有させることで、リンカンが奴隷解放宣言を出した目的をリンカンの立場に立って考察させる。				
創造的教育方法の具体的実践例	・Chromebook のGoogle Jamboard を用いて、グループワークで作成したスライドを共有し、クラスの意見を集約させた1つのスライド作成を目指す。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて			評価
導入	●現在まで黒人差別が根強く続いていることに気づく。	○Power Point でローザ・パークスを紹介し、奴隷制の歴史が根強く残っていることに気づかせる。			
	●資料①から黒人の訴えを読み取り、独立宣言の問題点を再確認する。	○資料①を確認し、黒人側の意見を確認させる。			
展開①	●北部と南部の違いについて、ワークシートを用いながら、貿易政策・連邦政府の権限・奴隷制について考察する。	○独立宣言や南部のプランテーション農業の歴史を再確認させる。 ○北部と南部では奴隷制の存続に違いがあったことを理解させる。			

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和 5年 6月14日

教科	数学	科目	数学 I	単元	2次関数
実施学級	1年10組	実施教室	1年10組教室	授業者	加藤 直大
本時の指導目標	2次関数の分解形の性質を理解して、最大値や最小値を求めることができる。				
本時の手だて	分解形の式で与えられる2次関数のグラフをタブレットの画面上で作成し、性質を理解させる。				
創造的教育方法の具体的実践例	個々のタブレットを用いてのグラフ作成ソフト利用。 プロジェクター等を用いての全体共有。 身の回りで起きる2次関数の性質を伴う事象を取り扱う。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて			評価
導入	●文章題の問題を読む。				
展開①	●応用例題1及び練習問題19を解く。 <平方完成を利用して求める。>	○作図立式には適宜ヒントを与えながら行う。 ○机間巡視を行い、個別指導も合わせて行う。	頂点の座標やグラフを用いて最大値・最小値を求められる。 【知識・技能】		
展開②	●グラフ作成ソフトを用いて、分解形の性質を理解する。	○タブレットで数種類の分解形の式をグラフで表し、最大値や最小値の性質を理解させる。	グラフの形を見て、分解形の特徴を見出せる。 【思考・判断・表現】		
展開③	●身の回りの事象の最大値や最小値を分解形の性質を用いて求める。	○文化祭をテーマにして、売り上げや利益の計算を行わせる。 ○展開②で理解した性質を利用させる。			
まとめ	●分解形の性質をまとめる。				

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年6月14日

教科	理科	科目	生物基礎	単元	第2章 遺伝子とのはたらき
実施学級	1年1組	実施教室	1年1組	授業者	高嶋 麻衣子
本時の指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・DNA→RNA→タンパク質の一連の流れをアニメーションを意識しながら説明することができる。 【知識・理解】 ・DNAとRNAの違いを意識してDNAから転写されるRNAを考えることができる。 【思考・判断・表現】 				
本時の手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・DNA→RNA→タンパク質の一連の流れのアニメーションを見せることで視覚的な理解を促す。 ・DNAからRNAの転写が塩基の相補性に基づいて行われていることを実感させるために、数研出版のサイトにアクセスして実際のDNAからRNAを転写させる。 				
創造的教育方法の具体的実践例	転写したRNAの塩基配列がわかるか確認するために、数研出版のサイトにアクセスして、ゲーム（オンライン教材）を用いて15秒以内に実際のDNAからRNAを完成させる。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて			評価
導入	前時の復習を行う ●自分の身体が何でできていたかを確認する。 ●タンパク質の違いは何によってできていたか確認する。	○全員が復習をできているか確認するために、全員立たせてペアで前時の復習をさせ、内容を確認ができたペアは座らせる。			
	目標：DNAから何のアミノ酸ができるのかわかる				
展開	セントラルドグマ ●セントラルドグマの流れを動画で確認する。	○イメージをつけさせるために、動画で確認をし、生徒自身に説明させる場を設定する。			セントラルドグマの内容を説明することができる。 【知識・理解】 (様相観察)

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年 6月 14日

教科	英語	科目	英語コミュニケーションII	単元	Lesson 3 Activity Corner
実施学級	2年5組	実施教室	2年5組教室	授業者	伊藤 直美
本時の指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅の危機にある動植物の現状について、現在までの状況や絶滅の危機にある理由などを、聞き取って捉えている。 ・絶滅の危機にある動植物の現状について多様な語句や文を用いて、主体的に考えを詳しく伝えようとしている。 				
本時の手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・現在までの状況や絶滅の危機にある理由などを伝えたり聞き取ったりできるよう、使用する語彙の発音を予め確認する。 ・クイズアプリ Kahoot! を使用して、写真等の視覚的資料を見ながら語彙を学ぶことで、定着を図る。 ・教師の発表を聞いて、伝わりやすい発表の特徴をつかみ、自らの発表に活用させる。 ・目標を事前に設定し、それらを意識して練習させる。 				
創造的教育方法の具体的実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズアプリ Kahoot! を使用して、写真等の視覚的資料を見ながら語彙を学ぶことで、定着を図る。 				
学 習 の 展 開					
学習活動	指導上の留意点				評価
●生徒の活動	○教員による支援 ○手だて				
<ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を認識する。 ○手本として、教師の発表を聞く。 ●発表の良かった点、悪かった点を考える。 ○動物の名前や「心配する」表現の発音を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペア、グループ内発表後にグループの代表者を選ぶことを確認させる。 ◎教師の発表を聞いて、伝わりやすい発表の特徴をつかみ、自らの発表に活用させる。 ◎目標を事前に設定し、それらを意識して練習させる。 ○クイズアプリ Kahoot!を用いて、それぞれの端末でクイズに答えさせる。 ◎クイズアプリ Kahoot! を使用して、写真等を見ながら語彙を学ぶことで、定着を図る。 				

展 開	○ペアで発表する。	○発表の目標を確認する。	○絶滅の危機にある動植物の現状について多様な語句や文を用いて、主体的に考えを詳しく伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (様相観察) ○絶滅の危機にある動植物の現状について、現在までの状況や絶滅の危機にある理由などを、聞き取って捉えている。【思考・判断・表現】 (ワークシート記述分析)
	○グループで発表する。	◎相手が言ったことを聞き取れなかった際に聞き返す表現を使うよう促す。	
ま と め	○グループの代表を決め、クラスの前で発表する。 ●聞いた内容をワークシートに記入する。 ○自己評価を行う。	○話したことが理解できたかどうか、生徒に確認する。 ○絶滅の危機にある動植物について話す際の語彙を確認する。 ○評価を行う。	

②第2回実践発表会・公開授業

「新時代に対応した高等学校改革推進事業(創造的教育方法実践プログラム 第2期)」

第2回実践発表・公開授業

1 実施日

令和5年11月7日(火)

2 日 程

11:00~11:20	受付
11:25	学校長あいさつ 福岡県教育委員会あいさつ
11:35~12:25	公開授業 I 国語科 船越教諭(2年2組 古探) 地歴科 田村教諭(2年6組 日探) 数学科 加藤教諭(1年9組 数A) 理科 増田教諭(2年8組 化基) 英語科 黒髪教諭(3年6組 コIII)
12:25~13:10	昼休憩
13:10~14:00	公開授業 II 国語科 井上教諭(2年6組 論国) 地歴科 北川教諭(2年8組 地探) 数学科 伊野教諭(2年7組 数II) 理科 高嶋教諭(3年2,4組 生物) 英語科 黒髪教諭(3年6組 コIII) 論理コミュニケーション 井上氏(オンライン 第1学年)
14:10~15:00	全体協議会 (公開授業 I・公開授業 IIの授業担当者自評及び受講生徒の感想) 一ノ宮、高野、福田、梅津、伊與田、三浦、穂満
15:10~16:00	第2期事業内容説明(中間発表) 第2期事業内容説明 事業に取り組む生徒発表及び意見交流会 衛星データの利活用 A班 上村、岩永、永谷、村上 韓国ソジョン高校との共同研究 新屋、凱令
16:00~16:30	質疑応答
16:30	学校長あいさつ

3 公開対象

福岡県教育委員会、福岡県教育センター、創プロ運営指導委員、糸高コンソーシアム委員
福岡県高等学校関係教職員、県外文部科学省研究指定校、生徒保護者
関係事業関係者

4 研究授業者

教科	国語	単元	『源氏物語』 若菜との出会い			授業概要	【教科等横断的な授業】 【探究型授業】 【Googleアプリケーション】 【情報活用能力の育成】 「源氏物語」を通して、日本語の比喩的な表現方法や婉曲な表現方法が、英語ではうまく表現できないことを比較することで、日本語を多角的・多面的に捉えさせ、豊かな言語感覚を培う。
科目	古典探究	実施学級	2年2組	授業者	船越 麻衣子		
教科	国語	単元	AI時代の社会と法			授業概要	【探究型授業】 【生成AI教材 (LINE AIチャットくん)】 【情報活用能力の育成】 小論文において、自らの考えをまとめさせるために生成AIを活用する。日本で議論が続く政策論議に関する対立構造を読むことで、その根拠を調べる過程を通して、安易に正解や模範解答を示すことよりも、自分の考えを持って他者に理解してもらえる力を養うことの重要性を理解させる。
科目	論理国語	実施学級	2年6組	授業者	井上 陽平		
教科	数学	単元	微分と積分			授業概要	【探究型授業】 【情報活用能力の育成】 【ブラウザ版アプリケーション】 正方形の1枚の厚紙から蓋つきの箱の最大値を微分を用いて計算する。作図ソフト「Desmos」を活用したり、一般的な蓋つきの展開図より容積が大きくなる展開図を班員と協力し考えさせる。
科目	数学Ⅱ	実施学級	2年7組	授業者	伊野 謙一		
教科	数学	単元	確率			授業概要	【教科等横断的な授業】 【Googleアプリケーション】 【情報活用能力の育成】 情報1の授業とタイアップし、スプレッドシートに6人でジャンケンした場合のシミュレーションを関数で作成する。班員と協力し、シミュレーションを作成する過程から数学的な見方・考え方を養う。
科目	数学A	実施学級	1年9組	授業者	加藤 直大		
教科	地歴科	単元	地球環境問題			授業概要	【探究型授業】 【生成AI教材 (ChatGPT) 、 Googleアプリケーション】 【情報活用能力の育成】 ディベート活動を通して論理的に考え、自らの意見を表現する力を養う。また、AIの主張に対しても、その根拠を情報収集して検証し、その過程を、論理的に表現させることで、批判的思考力を養う。
科目	地理探究	実施学級	2年8組	授業者	北川 暁司		
教科	地歴科	単元	武家政権の成立			授業概要	【探究型授業】 【Googleアプリケーション】 【情報活用能力の育成】 モンゴル襲来について、教科書やインターネットだけではなく、現地の写真や資料館職員の意見などの多様な資料を活用して多面的に考察させ、グループごとにGoogleスライドにまとめて発表する。
科目	日本史探究	実施学級	2年6組	授業者	田村 晴香		
教科	理科	単元	生命の起源と進化			授業概要	【生成AI教材 (LINE AIチャットくん)】 【情報活用能力の育成】 カードに書かれた生物について、互いに質問を出し合いカードに書かれた生物名を当てるゲームを行う。出題者はあらかじめ自分の持っているカードに関わる質問をAIを使って予想させ、相手の質問内容について事前に準備することで、分類と系統への理解を深めさせる。
科目	生物	実施学級	3年2,4組 2A講義室	授業者	高嶋 麻衣子		
教科	理科	単元	酸化還元反応			授業概要	【自由進度学習】 【動画、オンデマンド配信】 生徒を習熟度別の小集団に組織化して、個別最適な支援を行う。単元の解説動画を習熟度別に準備することで、学習内容の定着度にあった進度で学習ができるようにする。
科目	化学	実施学級	2年8組	授業者	増田 剛		
教科	外国語 英語	単元	英語ディベートの実践			授業概要	【同時双方向型授業】 【Googleアプリケーション】 【情報活用能力の育成】 他校とオンラインでつなぎ、英語によるディベートに取り組む。相手に負けないように、自分の意見を論理的にまとめさせることで、英語で伝え合う力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現する。
科目	コミュニケーション 英語Ⅲ	実施学級	3年6組 旧社会科講義室	授業者	黒髪 真之		
教科	総合的な 探究の時間	単元	第8回授業_第一回検定解説			授業概要	【同時双方向型授業】 【Googleアプリケーション】 遠隔地の講師が、ICTを活用した同時双方向型授業で小論文講座を行う。代表クラスの生徒の手元の状況や内容をモニタリングし、適宜支援を行うことで、習得内容及び改善内容を具体的に理解させ、自らの論述力向上に繋げる。
内容	論理 コミュニケーション	実施学級	1学年全員	授業者	慶應義塾大学SFC研究所 井上 孝志		

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和 5年11月 7日

教科	国語	科目	古典探究	単元	『源氏物語』 若紫との出会い
実施学級	2年2組	実施教室	2年2組教室	授業者	船越 麻衣子
本時の指導目標	源氏物語を多角的・多面的に評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりできる。				
本時の手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動により、原典・現代語訳・英訳を読み比べ、受けるイメージの違いや書き手の意図による違いなどを共有し、理解を深める。 ・国語科と英語科によるチームティーチングにより生徒の言語に対する思考を多角的に支援する。 				
創造的教育方法の具体的実践例	【教科等横断的な授業】【探究型授業】【Google アプリケーション】【情報活用能力の育成】 古典と英語との教科横断型授業により文化の相違を理解し、豊かな言語感覚を養う。Googleスライドを用いて、自分自身の考えをグループ・クラスで共有する。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて		評価	
導入	●『源氏物語』を読み比べる際のポイントを理解する。	○それぞれの文章の特徴や使用されている単語、受けるイメージの違いや書き手の意図による違いについて説明する。 (5分)			
展開1	●調べたものを持ち寄り、Googleスライドで共有する。	○班に分かれ、お互いの意見を共有する。途中、班員を入れ替え、再度共有する。 ○英語科、国語科教員により、助言をする。 (10分×2)	源氏物語を多角的・多面的に評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。		
展開2	●Googleスライドに班でまとめ、いくつかの班が発表する。	○共有したもの、さらに深めたものをGoogleスライドにまとめる。 (15分)			
まとめ	●我が国の言語文化のよさをまとめる。	○「英訳」「現代語訳」と比較することで、気づいた『源氏物語』のよさ、日本語のよさをGoogleフォームでまとめる。 (10分)			
感情曲線					
生徒の感情曲線					

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年11月7日

教科	国語	科目	論理国語	単元	AI時代の社会と法
実施学級	2年6組	実施教室	2年6組	授業者	井上 陽平
本時の指導目標	AIの発展がもたらす社会の変化を把握し、新時代の問題意識を持つ。				
本時の手だて	トロッコ問題とAIの関係から、日本で意見が分かれている問題に思考を広げ、生成AIによって問題に対する賛否を読み、自分の考えを持つきっかけをつくる。				
創造的教育方法の具体的実践例	【探究型授業】【生成AI教材 生成AI】【情報活用能力の育成】 LINE AIチャットくんを活用して、政策論題についての現代の対立構造を読み、自分の考えを決定する。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて		評価	
導入	内容の復習 ●本時の目的を確認する。	○AIによる判断とトロッコ問題の筆者が述べる問題の本質の違いを読み取り、AIの発展が社会の大きな変革をもたらす可能性と人間ができることを確認させる。 ○一斉講義で授業に向かう雰囲気を醸成する。 (10分)			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●政策論題について自分が考える題を選ぶ。 ●生成AIを活用してその対立構造を読む。 ●その議論について自分の立場を決定し、その立場を小論文にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生成AIを活用して、日本で議論が続く政策論題に関する対立行動を読ませる。 ○Chromebookを活用して、自分の考えに対する根拠を調べさせる。 ○答えを出すことよりも自分の考えを持つことが大切であると伝える。 ○小論文を書くための構成ノートを使用する。 (30分) 			論題に対して、自らの主張とその理由を、辞書などを活用しながら書くことができる。 【知識・技能】 (様相観察)
まとめ	本時のまとめと次回の予告				(10分)
感情曲線					
生徒の感情曲線					

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年11月7日

教科	地理歴史	科目	地理探究	単元	地球環境問題
実施学級	2年8組	実施教室	2年8組教室	授業者	北川 暁司
本時の指導目標	地球環境問題への取り組みに対して賛成・反対の立場で自分の考えをもち、議論することができる。				
本時の手だて	自らの考えをもって意見を論理的に組み立て、説明することができるようになるために、ディベートを行う。				
創造的教育方法の具体的実践例	【探究型授業】【生成 AI 教材 (ChatGPT)、Google アプリケーション】 【情報活用能力の育成】 議論を戦わせるために必要な情報の取捨選択による情報活用能力の育成を図る。生成 AI の活用と検証を行う。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて		評価	
導入	ディベートの役割について ●ディベートにおける役割を確認する。 ●ディベートの最終準備を行う。	○ディベート資料を用いて、ディベートのルールを常に確認できるようにする。 ○相手の意見をよく聞き、自分の考えと比較しながら考えさせる。 ○発言は感情的にならず、きちんとした論点で行うように説明する。 ○審判は両方の意見をよく聞いて判定を行わせる。 (10分)		論題について肯定と否定の視点から資料調査を意欲的にしている。 【知識・技能】 (プレストシート)	
	ディベートの実践 ●「日本は2035年にガソリン車の新車販売を禁止すべきである。是か否か。」についてのディベートを行う。	○必ず時間は守らせる。 ○タイムキーパー用のカードスライドを用いて、経過時間を示す。 ○発言内容については、必要に応じて記録用紙にメモをとらせる。 ○審判は判定表に立論に対する評価を記入させる。 ○フローシートを用いてディベートを記録させる。		利用できる根拠に基づいて主張を論証することができる。 【思考・判断・表現】 (様相観察)	
展開					

展開	○質問は相手側の考えを認めながらも、自分の正しさを主張するために、不備な点をつき、議論がかみ合うように留意させる。 ○相手の論拠を崩しながら反論させる。 ○判定が審判の個人的な意見ではなく、各側の発言をよく聞いたうえで、公平に判定させる。 (25分)	
	生成 AI とのディベート実践 ●生成AIが提案するメリットとデメリット、反駁に対して、反駁をする。	○フローシートを用いてディベートを記録させる。 ○質問は相手側の考えを認めながらも、自分の正しさを主張するために、不備な点をつき、議論がかみ合うように留意させる。 ○相手の論拠を崩しながら反論させる。 ○生成 AI が提案するものについては検証する必要があることに留意させる。 (15分)
まとめ		
感情曲線		

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和 5年 11月 7日

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単元	武家政権の成立
実施学級	2年6組	実施教室	2年6組	授業者	田村 晴香
本時の指導目標	①モンゴル襲来と、九州北部の人々のかかわりを理解することができる。 ②モンゴル襲来の経緯について資料から多角的・多面的に考察し、表現することができる。				
本時の手だて	①班ごとに違う資料や問いを提示することで、モンゴル襲来の経緯を作成したスライドをもとに順序立てて理解させる。 ②班活動で、Chromebook (Google スライド) を活用させ、資料を読み取った内容を共有させることで、モンゴル襲来を背景・経路・戦闘方法・九州北部の人々のかかわりなど様々な視点から考察させる。				
創造的教育方法の具体的実践例	【探究型授業】【Google アプリケーション】【情報活用能力の育成】 ・デジタルデータを用いて、史料や絵巻を読み取り、授業を展開する。 ・福岡市経済観光文化局文化財活用部の方のお話や、地元の史跡を活かし、日常の学習活動と地域教材を関連付ける。				
学 習 の 展 開					
	学習活動 ●生徒の活動	指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて	評価		
導入	●「神風」と聞いて想像したものを共有する。	○「神風」について出てくる意見を生徒同士で共有させる。 (5分)			
展開①	●班ごとにモンゴル襲来の史料や絵画、地図などを読み取り、Google スライドにまとめる。	○班活動で、Chromebook (Google スライド) を活用させ、資料を読み取った内容を共有させることで、モンゴル襲来を背景・経路・戦闘方法・九州北部の人々のかかわりなど様々な視点から考察させる。 (20分)	・問いに対して資料を読み取り、自分の意見を表現することができる。 【思考・判断・表現】 (Google スライド)		
展開②	●班の中で Google スライドの記述内容をクラスで共有し、モンゴル襲来の背景やその経緯を理解する。	○モンゴル襲来の資料を複数提示し、福岡には多くの史跡があることに気づかせ、郷土史に対する興味・関心を高めさせる。 (20分)			

まとめ	●神風が吹いてモンゴルが撤退したのではなく様々な背景があったことを理解する。 (5分)	◎班で調べた Google スライドで、モンゴル襲来の背景を理解させる。	・元軍が撤退した理由は諸説あり、現在も議論が行われていることを理解できる。 【知識・技能】 (プリントの記述)
感情曲線			

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年11月7日

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単元	微分と積分
実施学級	2年7組	実施教室	2年7組	授業者	伊野 謙一
本時の指導目標	導関数の応用問題を解けるようになる。				
本時の手だて	問題文から立式した関数のグラフを作成することで、視覚的に理解し、応用問題に対する抵抗を和らげる。				
創造的教育方法の具体的実践例	【探究型授業】【情報活用能力の育成】【ブラウザ版アプリケーション】 直方体の展開図が複数あることを示唆された後に、インターネットを用いて情報収集し、展開図の形を調べる。その後、様々な展開図から求められる容積の関数をグラフ作成のWebサイト「desmos」を活用し、立式した関数を自動的にグラフにすることで、比較・検討を容易にする。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて		評価	
導入	例題の復習。	○例題の解法を説明し、3次関数のグラフが活用できることを理解させる。		関数の増減やグラフを調べることで、方程式の実数解の個数や関数の最大・最小を求めることができる。【知識・技能】(様相観察)	
	正方形の厚紙を切り、ふたのない直方体の容積が最大となる x の値と、その容積を求める問題。 ●例題の解き方を理解する。				
展開①	○問題の提示	正方形の厚紙を切り、ふたのついた直方体の容積が最大となる x の値と、その容積を求める問題。		微分で学習したことを、具体的な事象の考察に活用しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(様相観察)	
	●紙を実際に切り折りし、ふたつきの直方体の展開図を作成する。	◎型紙を配付し、実際に直方体を作成させる。 ○ある程度答えが出そろったら、ふたつきの箱をつくる展開図は複数存在することを示唆する。			

展開②	●ふたつきの直方体の展開図には、どのようなものがあるのかをChromebookを用いて調べる。	◎立式した関数を「desmos」に入力させ、そこから最大値を導かせる。 ○このとき、 x の定義域に注意させる。 ○自身の展開図と異なるものから導かれた関数を入力させ、「desmos」で比較させる	関数の増減やグラフを活用して、具体的な事象に関する問題を解決することができる。【思考・判断・表現】(机間指導)
	●作成した直方体の容積を関数で表し、その最大値を「desmos」を活用して導く。		
まとめ	●周囲の人が考えた関数を「desmos」に入れることで、自身の考えた関数と比較する。	(2.5分)	
感情曲線 生徒の	●直方体の展開図が複数あることに着目し、複数の関数のグラフを「desmos」で描くことで比較が容易になることを理解する。	(5分)	

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和 5年 11月 7日

教科	数学	科目	数学 A	単元	確率
実施学級	1年9組	実施教室	1年9組	授業者	加藤 直大
本時の指導目標	6人でじゃんけんをするとき、あいこになる確率を求めよう。				
本時の手だて	スプレッドシートにおけるシミュレーションを作成して、問題の理解と思考のプロセスを整理する。				
創造的教育方法の具体的実践例	【教科等横断的な授業】【Google アプリケーション】【情報活用能力の育成】各生徒が Google のスプレッドシートで作成したモデルを用いて、実際にシミュレーションを行い、そこから確率を推定する。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ◎手だて			評価
導入	問 6人でじゃんけんをしたときあいこになる確率を求める。				
	●経験則をもとに、おおよそどれくらいかを検討させる。	○生徒の意見をフォームで集約して、個々の意見を確認させる。			(5分)
展開1	●スプレッドシートに6人でじゃんけんをする事象をモデル化し、シミュレーションを行い、確率を推定する。	◎6人1班の班活動を行う。 ○ワークシートに沿って、じゃんけんのシミュレーションを各々の Chromebook で作成する。			班員で協力してシミュレーションを完成させようとする。【主体的に学習に取り組む態度】(様相観察)
	●数学的な観点から、立式を行い問の確率を求めよう。	◎6人1班の班活動を行う。 ○ワークシートに沿って、シミュレーションの時の考えかたを整理しながら、数学的観点から問題にアプローチを促す。			シミュレーション作成の考え方を活用して、立式へと繋げることができる。【思考・判断・表現等】(様相観察)
まとめ	●あいこに対する考え方を再確認する。	○スライドを用いて、今日の活動のまとめを行う。			(5分)
感情曲線					

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和 5年 11月 7日

教科	理科	科目	生物	単元	生命の起源と進化
実施学級	3年2・4組	実施教室	2A教室	授業者	高嶋 麻衣子
本時の指導目標	友人の持つカードの生物をヒントから考えることができる。				
本時の手だて	生物の同定を行うには、生物の分類と系統を理解することが重要であることを気づかせるために、生物の同定に関する予想される質問を生成 AI で調べさせる。				
創造的教育方法の具体的実践例	【生成 AI 教材 (LINE AI チャットくん)】【情報活用能力の育成】生成 AI を活用して、生徒から出るであろう質問の内容を推測させる。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ◎手だて			評価
導入	●生物の種が書かれたカードを受け取る。	○生成 AI に入れる文章は教員が定型文を提示する。			
	●生成 AI を用いて、予想される質問を検索し、質問の答えを考える。	◎予想される質問内容は生成 AI で検索し、質問の答えは自分で調べる。			
展開	●代表者1名に班ごとに質問をしていく。	○質問の答えが誤っていた場合は教員が訂正する。			生物の分類と系統を理解し、質問やその質問の答えから論理的に生徒の持つカードの生物の同定を行うことができる。【知識・技能】(正答率)
	●代表者の持つカードの答えがわかり次第、班で答えを打ち込む。	◎答えがわかり次第、代表者にクラスルームへ入力させる。早く正解を出した班が点数を獲得する。			
まとめ	●どのような質問をするか、早く答えがわかるか考えて Classroom にて提出する。				(30分)
感情曲線					

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年11月7日

教科	理科	科目	化学	単元	酸化還元反応
実施学級	2年8組	実施教室	2年8組教室	授業者	増田剛
本時の指導目標	思考問題を通して、主体的に問題を解決しようとする態度を育成する。				
本時の手だて	学習形態（対面学習、グループ学習、オンデマンド配信による授業動画の視聴学習）を分けた自由進度学習により、学習内容の理解を深める。				
創造的教育方法の具体的実践例	【自由進度学習】【動画、オンデマンド配信】 Googleクラスルームを用いた授業動画のオンデマンド配信の視聴				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて			評価
導入	●本時の目標、流れの確認を行う。 ●重要事項を復習する。（一斉）	○指定した座席の状態始める。 ○流れを示し、学習の見通しをもたせる。 ○ワークシートの重要事項を確認させる。（5分）			
展開	●電気分解の量的関係に関する基礎問題演習を行う。（対面） ●電気分解の量的関係に関する標準問題演習を行う。（グループ） ●電気分解の量的関係に関する応用問題演習を行う。（個別、グループ）	【基礎問題演習グループ】 ○演習問題で分からないところについては、個別に支援する。必要であれば全体にも支援をして解決できるように促す。 ○基礎問題の解答を板書し、確認させる。 【標準問題演習グループ】 ○グループ学習が円滑に進むように机間巡視を行い、必要な支援を適宜行う。 ○問題解決手段として動画の視聴を促す。 ○代表者に解答を提出させ、確認後、返却して解答をグループ内で共有させる。 【応用問題演習グループ】 ○動画の視聴を促し、個別、または、グループで問題解決に取り組ませる。（40分）			ワークシートに向き合い、問題解決に向けて積極的に取り組む姿勢を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 （様相観察） （プリント提出）
まとめ	●本時の振り返りを行う。（一斉）	・ワークシートの振り返りを記入させる。（5分）			
感情曲線					

創造的教育方法実践プログラム公開授業 授業デザイン案

実施日：令和5年11月7日

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ	単元	英語ディベートの実践
実施学級	3年6組	実施教室	3年6組教室	授業者	黒髪 真之
本時の指導目標	・グループの意見を英語でまとめ、発表することができる。 ・他者と意欲的にコミュニケーションを図り、自分の考えをさらに説得力のあるものにすることができる。				
本時の手だて	・生徒が意見を、より自信をもって、全体の場で言いやすくするために、グループでの準備に取り組ませる。 ・外部と同時双方向型通信を行うことで、他校の生徒と交流させることを通して、主体的・対話的な深い学びを促す。				
創造的教育方法の具体的実践例	【同時双方向型授業】【Google アプリケーション】【情報活用能力の育成】 外部と同時双方向型通信を行うことで、他校の生徒と交流させることを通して、主体的・対話的な深い学びを促す。				
学 習 の 展 開					
学習活動 ●生徒の活動		指導上の留意点 ○教員による支援 ○手だて			評価
導入	●これまでの復習 ●本時の活動の確認	○warm-up で、英語の授業の雰囲気を醸成する。			
展開	●議題を踏まえて、グループで話し合いを行う。 ●他校の生徒とクロムブックを通して、遠隔ディベート①を行う。 ●他者の意見を聞き、感じたことをグループ内で話し合い、次のディベートに向けた準備を行う。 ●他校の生徒とクロムブックを通して、遠隔ディベート②を行う。	○全体の様相観察から、改善するべき点は全体で、共有する。 ○話し合いが活発に進むように促す。 ○話し手には、相手の反応を見ながら、説明をするように促す。			議題に対して、どちらがよいかについての主張とその理由を、辞書等を活用しながら、書くことができる。【知識・技能】（様相観察）
まとめ	●次回の授業の予告				
感情曲線					

③第3回実践発表会・糸学中間発表会

「新時代に対応した高等学校改革推進事業(創造的教育方法実践プログラム 第2期)」

第3回実践発表会

1 実施日

令和6年1月31日(水)

2 日 程

12:40~13:00	受付
13:00	学校長あいさつ 福岡県教育委員会あいさつ
13:10	福岡県教育委員会紹介(校長) 運営指導委員紹介(副校長) 糸高コンソーシアム委員紹介(副校長) 糸島高校職員紹介(自己紹介)
13:20	本日の日程説明(研修開発課長)
13:22~13:35	第2年次事業報告(研修開発課長)
13:35~14:00	意見交換会(運営指導委員会・糸高コンソーシアム会議) (10分 休憩)
14:10~15:00	第2学年糸学中間発表会 (休憩)
15:10~16:30	指導・助言(運営指導委員会・糸高コンソーシアム会議)
16:30	学校長あいさつ

3 公開対象

福岡県教育委員会、福岡県教育センター、運営指導委員、糸高コンソーシアム委員
生徒保護者、関係事業関係者

(4) 校内における組織的推進体制

研究事業実施委員会

職名	氏名	備考
校長	荒木 礼子	総務（統括）
副校長	井上 功一	総務
教頭	安川 俊英	総務
参事兼事務長	永田 眞里	所要経費管理
主幹教諭	坂本 伸二郎	教務部長（教務主任） ・看護・医療系クラスのカリキュラム開発
主幹教諭	藤田 恭子	キャリア教育推進部長
主幹教諭	藤野 健太郎	生徒部長（生徒指導主事）
指導教諭	小森 純子	糸高未来構想部長
教諭	佐々木 修一郎	研修開発課長（研修主任） ・韓国ソジョン高校との共同研究 ・総計学（衛星データの利活用） ・MEXCBTの利活用
教諭	長江 範一	ICT・情報課長 ・ネットワーク環境整備
教諭	井上 陽平	公開授業担当者（国語科） IGLプログラム担当
教諭	船越 麻衣子	公開授業担当者（国語科）
教諭	北川 暁司	公開授業担当者（地歴公民科）
教諭	田村 晴香	公開授業担当者（地歴公民科）
教諭	伊野 謙一	教務課長 ・看護・医療系クラスのカリキュラム開発 公開授業担当者（数学科）
教諭	加藤 直大	1学年主任 公開授業担当者（数学科）
教諭	高嶋 麻衣子	公開授業担当者（理科）
教諭	増田 剛	公開授業担当者（理科）
教諭	伊藤 直美	公開授業担当者（外国語英語科）
教諭	黒髪 真之	公開授業担当者（外国語英語科）
教諭	神野 晋作	看護・医療系クラス担任
教諭	永井 真佐美	論理コミュニケーション担当

(5) 創造的教育方法実践プログラム実施上の課題及び今後の方向性

1. 実施上の課題

(1) 創造的教育方法の普及

新時代に対応した高等学校改革推進事業における根幹であるSociety5.0に対応する新しい学びの創造を行うにあたり、失敗を恐れず挑戦するトライ&エラーの姿勢が大切である。しかし、学校現場は閉鎖的であり、例年の内容を踏襲することを是とする風潮が少なからず存在する。本事業では、外部教育資源を積極的に取り入れること、そしてICTを活用した、距離に関係なく繋がることのできるメリットを最大限に生かすことで、閉塞的な学校現場に新たな風を送り込むことができる。

手元の端末一つで世界と繋がることのできる時代を生きる生徒に対し、その危険性を正しく理解しながらも、可能性を閉ざすのではなく、職員が寄り添う柔軟性と生徒と共によりよく導く専門性を兼ね備えた新しい教育方法が求められる。職員研修、研究授業、実践発表会など、どの年代層の職員に対しても普及する地道な草の根運動が求められる。

(2) 遠隔同時双方向型授業

遠隔同時双方向型授業においては、運営指導委員会並びに糸高コンソーシアム会議でも指摘されたように、「何のために」「誰のために」「どんなことを」「どこと」「どのように」などを明確にすることが大切である。同時双方向通信機器やアプリケーションに対するハードルに加えて、繋いだことによって見込まれる教育効果まで考えることは、現場の教員にとって負担感が大きい。しかし、実践例が増えることで、取り組みやすくなる。先進的な取組に対する不安感を取り除くためにも、積極的に実践し、実績データを蓄積する必要がある。

(3) 研究指定終了後の継続方法

校内の運営組織として「研究開発事業実施委員会」及び「授業改革推進委員会」を設置した。昨年度と比較し、本事業に関わる職員数は増えたが、学校全体の職員数からすると、依然として少ない。本事業が終了しても、学校として先進

的な取組を継続して自走する組織づくりが課題である。

2. 今後の方向性

(1) AI教材スタディサプリの導入

生徒の習熟度の差が表れやすい数学及び英語をメインとして取り扱い、個別最適な教育の推進を行う。

(2) 総合的な探究の時間のデザイン

生徒のキャリアデザインとしての総合的な探究の時間を研究する。具体的には、今年度のゼミ制を採用し、新たにプロジェクションマッピングや棚田、学校行事のプロデュースなど生徒が主体として活動できる内容を充実させる。

(3) 評価方法の研究

本事業に関わる生徒への評価を研究する。評価に対しては以下の点に留意する。

- (ア) 単純な文章評価ではなく、数値化できるもの
- (イ) どの職員がどの生徒に対しても、客観的に評価できるもの
- (ウ) 形成的評価を基本とし、生徒が自らの活動に対して振り返りができるもの

4. 資料

(1) 令和5年度創造的教育方法実践プログラム(事業モデル)

創造的教育法実践プログラム(第2期)

